

生活単元学習指導案

1. 単元名「さつまいもパーティーをひらこう」

2. 児童の実態

今年度は1年生が○名入り，○年生○名，○年生○名で計5名のクラスである。1年生も学校生活に慣れ，係の仕事や清掃活動など，少しずつ自分でできることが増えてきている。この5名の児童に，将来，社会的に自立し，自分の力で生活していけるような力を付けてほしいと願っている。

本学級の児童の知的な面における実態や生活経験等における個人差は大きい。生活経験を広げることが大切にながら，各教科・領域等の内容やその基礎となる内容を具体的な活動を通し，生活と関連付けて指導することが必要な児童や各教科・領域等の学習内容の定着に不安定さがあったり，身に付けた内容を生活場面等で活用することに課題があったりする児童が在籍している。各教科・領域等における指導に加え，児童が抱いた願いを題材に取り上げ，具体的で実際的な活動を仕組むことにより生活経験を広げることや目的的に活動する中で既習内容を関連付けたり，定着させたりできる指導が必要であると考ええる。

また，社会自立に向けて，次の「3つの力」が必要であると考ええる。

○「状況を把握し行動する力」：周囲の環境や，自分の今やるべきことなどを理解したり，感情をコントロールしたりして行動できる。

○「他者とかかわる力」：まわりの人に自分の気持ちを伝え，場に合った適切な振る舞いができる。

○「活動をやり抜く力」：決められた課題(活動の量，方法，役割，意義など)を意識し，最後までやり抜くことができる。

これらは，特別活動や自立活動の内容を含むものである。年間を通じ，どの単元においても指導の視点としてもち，継続指導する。同時に，日常の生活や他の教科・領域等においても意識して指導する。「3つの力」からとらえた児童の実態，及び身に付けたい内容は次の通りである。

※抽出児2名について記す

A 児	状況を把握し行動する力	前の学習を想起しながら学習を行うことができる。気持ちが落ち着いていると時間いっぱい集中して活動できるようになってきた。 失敗したり，間違えたり，注意されたりすると我慢ができず，自分のまわりの物を蹴ったり，叩いたり，自分の指を噛んでイライラしている気持ちを発散しようとする。	・ 嫌なことや気になることがあっても気持ちを切り替えながら学習に取り組むことができる。
	他者とかかわる力	感情の起伏が激しく，楽しいと感じると声が出たり，負けたと感じると怒ったり，泣いたりして学習に取り組めないこともある。休み時間は支援学級の友だちと遊ぶことも好きであるが，一人で粘土やお絵かきをして過ごすことも多い。	・ ペアの上級生と一緒に活動に取り組むことができる。 ・ 自分の思い通りにならなくても，我慢することができる。

	活動をや り抜く力	苗植えや草抜きなどの畑の作業は、ペアの上級生や教師と行ってきたが、虫や泥が気になりなかなか集中ができなかった。「カレー屋さんを開こう」の学習では、じゃがいもの皮を剥いたり、切ったりすることに興味をもち、時間いっぱい活動に取り組む姿がみられた。	・ピーラーを使った皮剥きや、簡単な調理に意欲的に取り組むことができる。 ・雑草かさつまいもの葉かの違いを意識しながら草抜きができる。 ・途中で気になることがあっても、最後まで作業を続けることができる。
B 児	状況を把握し行動する力	生活単元学習を楽しみにしている。初めての学習には不安感を示すことがあり、一緒に行くなどの支援が必要である。話を聞いて理解していても、まわりが気になり、今やるべきことができていないことが多い。	・教師や友だちの顔を見て話を聞くことができる。 ・周りのことを気にせず、今自分のやるべきことを考えて行動することができる。
	他者とかわる力	交流学級の教師や友だちが大好きで、常に意識している。学級の友だちとのかかわりも楽しみ、休み時間は一緒に遊んでいる。自分の思いを言葉で伝えられるようになってきた。入学当初と比べると声も大きくなってきた。	・教師や高学年に教えてもらったり、助けてもらったりしながら楽しく活動できる。 ・話しかけられるのを待つばかりではなく、自分から話しかけたり、お願いしたりできる。
	活動をや り抜く力	苗植えや草抜きなどの畑の作業は、ペアの上級生に支えられながら取り組んできた。ゆっくりではあるが側で声をかければ作業を行うことができる。「カレー屋さんを開こう」の学習では、ピーラーを使ってじゃがいもの皮を剥く活動に意欲的に取り組んだ。	・与えられた仕事を最後までやり抜くことができる。 ・ピーラーを使って、剥き残りがないように丁寧に皮を剥くことができる。

3. 単元設定の理由

本単元は、学習指導要領の各教科等の次の指導内容を取り入れている。

※抽出児2名について記す

国語

A(1)ウ 姿勢や口形、声の大きさや速さなどに注意して、はっきりとした発音で話すこと。

A(1)エ 大事なことを落とさないようにしながら、興味をもって聞くこと。

B(2)ア 経験したことや想像したことなどから書くことを決め、書こうとする題材に必要な事柄を集めること。

B(2)イ 自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。

算数

A(1)イ 個数や順序を正しく数えたり表したりすること。

C(1)ア ものの形を認めたり、形の特徴をとらえたりすること。

生活

- (7)動物を飼ったり植物を育てたりして、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもち、また、それらは生命をもっていることや成長していることに気づき、生き物への親しみをもち、大切にすることができるようにする。
- (8)自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を行い、身近な人々とかかわることの楽しさが分かり、進んで交流することができるようにする。

本学級の前に「〇〇畑」という畑があり、いちご、じゃがいも、タマネギ、いんげん、さつまいも等いろいろな野菜を育て、収穫を楽しんでいる。収穫した物で調理をし、自分たちだけでなくお世話になった方にも振る舞うという活動を年間通して行っている。今年度はこれまでに、春に校庭のよもぎを使ってよもぎ団子を作り、交流学級の教師や職員室の教師にも食べていただいた。いちごの収穫ではいちごジャムを作り、同じように職員室の教師にプレゼントする活動を行った。夏のじゃがいもの収穫では、児童の家族を招いて楽しくカレーの会を行った。どの活動でもプレゼントをした方や、招待した方が喜んでくれたという実感が得られ、収穫したら自分たちだけでなく、みんなで喜びを分かち合いたいという気持ちが育っている。

本単元ではこの流れを大切にし、収穫したさつまいもでそれぞれの交流学級の教師や友だちとさつまいもパーティーを行いたいと考えている。収穫したさつまいもで作ったお菓子をただプレゼントするだけでなく、育ててきたさつまいもについて詳しくなり、さつまいもについてのクイズを出しながら、それぞれの交流学級でさつまいもパーティーを開きたいと考えている。交流学級の教師や友だちに喜んでもらうことで、充実感を味わい、自信をもつと共に、仲間や周囲の方とかかわる喜びを感じ取ってほしいと願っている。

また、交流学級の教師や友だちに喜んでほしいという願いを実現するための活動を展開する中で、次のような内容を指導することができる考える。

<各教科に関する指導について>

- 生活科 ・育てたさつまいもを収穫したり、成長の様子の変化に気付いたり、他の種類のいもと比較したりして、それぞれのいもの特徴に気付いたり、まとめたりすることができる。
- 算数科 ・収穫したさつまいもの数を、10のまとまりを活かして正しく数えることができる。
・さつまいもの重さを図り、重さの単位を理解する。
- 国語科 ・収穫したさつまいもの特徴について、経験に基づいて話したり、文章に書いたりすることができる。

【ポイント①】（各教科の指導内容の明確化）

- ・生活単元学習は「教科等をあわせた指導」の指導形態であることに留意し、個に応じた教科の目標や内容を明確にして学習活動を行うことが大切。

<「3つの力」に関する主な指導について（特別活動、自立活動）>

○「状況を把握し行動する力」

同じような活動を繰り返すことで、見通しをもち、より主体的に取り組むことができると考える。過去に学習したことを生かして、さらなる工夫をすることもできると考える。

○「他者とかかわる力」

栽培から収穫，調理まで一人の力で成し遂げることは難しく，仲間と力を合わせ，協力することが必要となる。さらに収穫したさつまいもで調理をし，振る舞う活動を取り入れることで，他者とかかわりに広がりをもたせることができる考える。

○「活動をやり抜く力」

畑仕事は収穫までに草を抜いたり，水をやったりと，地道な努力が必要となる。また，調理では食べるまでに道具を準備する，分量を量る，切る等，多くの手順があり，最後までやり遂げなければ食べることができない。5人の児童はどの子も「食」に関心が高い。最後にみんなで食べるということを意識させることで，最初に立てためあてに立ち戻りやすいよさがある。また，交流学級の教師や友だちと楽しくパーティーをするという願いも準備に取り組むための強い動機になると考える。

4. 単元指導計画

(1) 目標 (※ 丸数字… ①状況を把握し行動する力 ②他者とかかわる力 ③活動をやり抜く力)

※抽出児2名について記す

A 児	国語 ・相手を意識して話すことができる。 ・自分の考えをまとめて書いたり、話したりすることができる。 算数 ・10のまとまりを作って正しく数えることができる。 ・物の形の特徴をとらえることができる。 生活 ・身近な人と関わる楽しさが分かる。
	①嫌なことや気になることがあっても、今やるべきことに気が付き、気持ちを切り替えることができる。 ②相手を意識した適切な言動をとることができる。 ③自分のやるべきことに対して、その場の状況に流されず最後まで取り組むことができる。
B 児	国語 ・声の大きさや速さに注意して話すことができる。 算数 ・10のまとまりを作り、正しく数えることができる。 生活 ・身近な人と関わる楽しさが分かる。
	①まわりのことを気にせずに、今自分のやるべきことを考えて行動することができる。 ②自分の思いを言葉で伝えながら、仲間とかかわることができる。 ③交流学級の教師や友だちが喜んでくれることを楽しみに、最後までやり抜くことができる。

(2) 計画(全14時間)

抽出児2名について記す。

また，その内容については個々の課題に沿って具体化する。

時	主な学習活動	個別の目標 <関係する教科>	評価規準
1	・さつまいもの苗を植える。	A 児 ・植え方に気をつけて，教師やペアの上級生と一緒に最後まで苗を植えることができる。 B 児 ・教師やペアの上級生と一緒に最後まで苗を植えることができる。 <生活>	・最後まで苗を植えている。

2	・さつまいもの収穫 ・葉や茎, さつまいもの様子を観察する。 ・収穫したさつまいもの数を数える。	A 児・B 児 ・意欲的に収穫することができる。 ・葉や茎, さつまいもの様子を観察することができる。 <生活> A 児 ・収穫したさつまいもを 10 ずつまとめ, 正しく数えることができる。 <算数> B 児 ・収穫したさつまいもを 10 ずつまとめることができる。 <算数>	・他ごとをせず、集中して収穫している。 ・さつまいもの数を正しく数えている。
3	・じゃがいもの学習を想起し, 今回は交流学級の教師や友だちに喜んでもらう会を行うことが分かる。	A 児・B 児 ・上級生や, 教師の話を聴いてこれからの学習の流れをつかむことができる。 <国語>	・上級生や, 教師の話に興味をもって聞いている。
4 本時	・さつまいも博士になるためのクイズに取り組む。 ・さつまいもについて感じたことや気が付いたことを交流する。	A 児・B 児 ・さつまいもを触ったり食べたりする活動で, 視覚的, 聴覚的な支援をすることによって, さつまいもの特徴を考えることができる。 <生活・国語・算数> A 児 ・自分の思いを教師や友だちに伝えるように言葉で伝えることができる。 <国語>	・今までの経験を想起しながらさつまいもの特徴を話したり, さつまいもの葉を選んだりしている。 ・自分の思いを言葉で伝えている。
5・6	・前時に学習したことを生かして, さつまいものクイズを作る。	A 児 ・前時に学習したことを生かしてクイズの内容を考え, 問題を作ることができる。 <国語> B 児 ・前時に学習したことを生かしてクイズの内容を考えることができる。 <国語>	・さつまいもや葉の形、味、食感についてのクイズを考えている。
7・8	・自分たちで芋きんとんを作る。	A 児 ・教師の話を聞いて, 芋きんとんの作り方が分かる。 <国語科> A 児・B 児 ・用具を正しく使ってさつまいもの皮を剥いたり, さつまいもを潰したりすることができる。 <生活科>	・教師の言葉を理解し, 正しく栗きんとんを作っている。 ・安全に気を付けて用具を正しく使用している。

9・10	・交流学級の教師や友だちが喜んでくれるように芋きんとんを作る。	A 児 ・前時に学習したことを生かして、一人で芋きんとんを作ることができる。 B 児 ・教師やペアの上級生と一緒に芋きんとんを作ることができる。 <生活科>	・手順を理解し、一人で芋きんとんを作っている。 ・教師の指示を聞いたり、上級生の真似をしたりして芋きんとんを作っている。
11・12	・さつまいもパーティーを開き交流学級にさつまいもについてのクイズ、芋きんとんのプレゼントをする。	A 児 ・交流学級に出掛け、友だちに伝わるようにクイズを出すことができる。 B 児 ・大きな声で友だちにクイズを出すことができる。 <国語科>	・はっきりとした発音で、問題文を正しく読んでいる。 ・一番後ろの席の児童に聞こえるような声でクイズを読んでいる。
13・14	・学習のまとめをする。	A 児 ・感想を出し合い、ペアと協力しながら絵や文章でまとめることができる。 B 児 ・新聞に絵を描いたり、場面ごとの自分の気持ちを教師と一緒に文章にまとめることができる。 <国語科>	・具体的な場面における感想を発表している。 ・やったことと気持ちを書いている。 ・楽しかった場面の絵を描いている。楽しかったことやその時の気持ちを文章に書いている。

5. 本校の研究について

自ら求め、ともに学び合い、学びを確実にする子の育成

～「わかる授業」「自己の生き方について考え方を深める授業」づくりを通して～

(1) 導入の場の在り方の工夫

① 追及意欲を高める教材・教具の工夫

「さつまいも博士」になるため、「やってみたい。」「できそうだ。」という気持ちをもつことができそうな3種類のゲーム、①触ってさつまいもあてゲーム、②食べてさつまいもあてゲーム、③さつまいもの葉はどれ？ゲームを用意することで、知的好奇心を高め、さらに、「わかった。」という喜びを味わわせることで楽しみながらさつまいもについて学んでいけるようにする。

(2) 追求の場の在り方の工夫

① 追及するための教材・教具の工夫

ゲーム①の「触ってさつまいもあてゲーム」では、触感でさつまいも、じゃがいも、里芋の中からさつまいもを選ばせる。さらに、迷った時に確かめられるように、見本として置いてある3種類の芋を手にとって確かめることができるようにする。また、形の特徴に気が付けるように、3種類の芋の形を簡素化したモデル(平面、立体)を準備し、さつまいもの形はじゃがいもや里芋に

比べて細長いということに気が付かせる。児童の得意とする感覚を用いることで、主体的な追究ができるようにする。

(3) まとめの場の在り方の工夫

① 学び合ったよさを味わう活動や評価の在り方の工夫

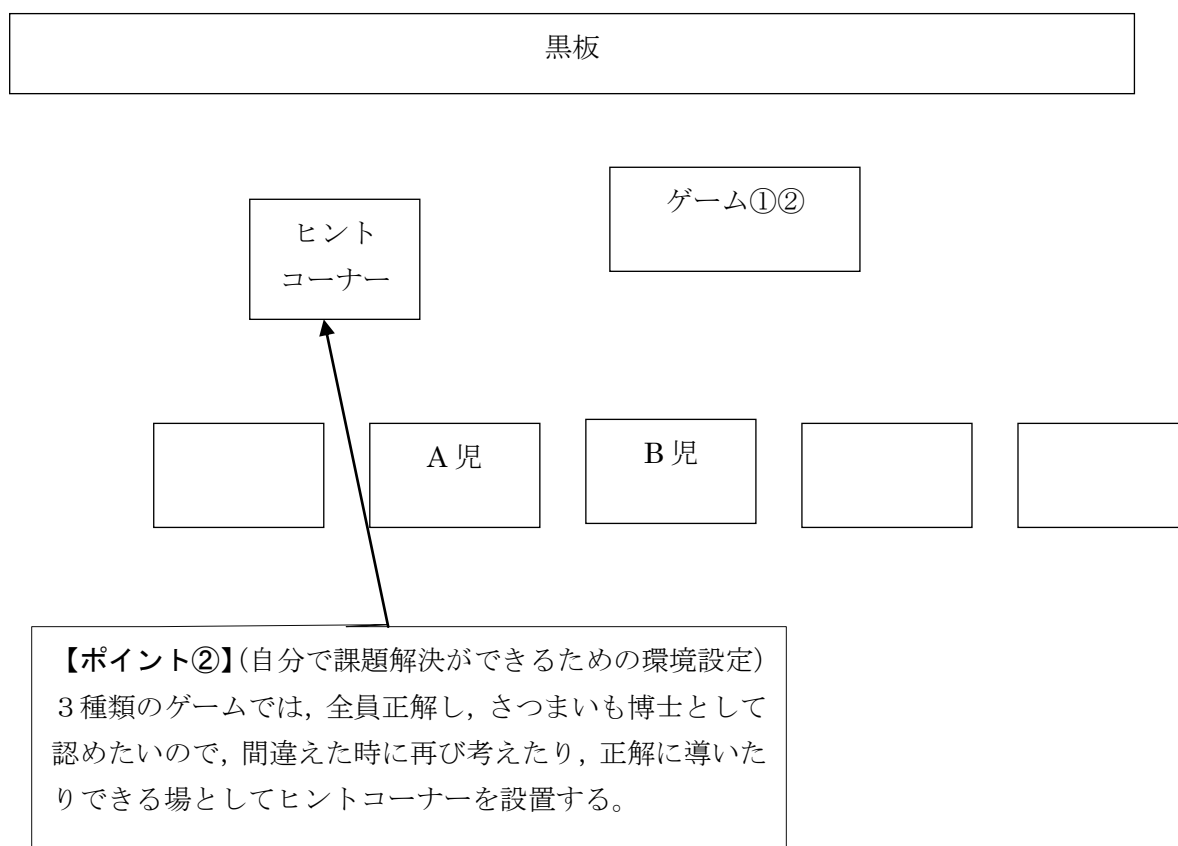
3種類のゲームでは、間違えても支援しながら正解に導き、学習のまとめでは全員をさつまいも博士と認めていく。「さつまいも博士」になった自信と喜びをもち、次時の交流学級での出題やプレゼント作りの活動につなげることができるようにする。

(4) 安心感・承認感を高めるための指導・援助の在り方の工夫

安心して活動に取り組むためには、一人一人が自分の考えを確実にもつことが大切であると考ええる。そこで、今までの活動を想起できるような写真を準備したり、さつまいもの形に気が付けるような視覚的、触覚的に確かめられる教具を準備したりすることで、一人一人が根拠をもって判断し、自信をもって思いを表出できるようにする。

また、学級で互いを認め合う関係が大切であると考えている。そこで、友だちや教師の顔を見て話が聴ける「聴き方名人」を意識させ、個の発言を大切にできる学習の場にしていきたいと考えている。

6. 環境設定図



場 所 : ○○○○
授業者 : ○○○○

1. 単元名 さつまいもパーティーをひらこう
2. 本時の学習展開 (4 / 14)

本時のねらい		A 児のねらい	B 児のねらい	指導上の留意点	
交流学級の教師や友だちにさつまいもについてのクイズを出すために、触ったり食べたりする活動を通して、さつまいもの特徴をつかむことができる。 友だちに伝わるように、さつまいもについて感じたことや気が付いたことを話することができる。		・さつまいもを触ったり食べたりする活動で、経験したことを想起する写真などを提示することによって、さつまいもの特徴について考え、話することができる。	・さつまいもを触ったり食べたりする活動で、視覚的、触覚的な支援や教師と一緒に活動することによって、楽しく取組むことができる。	【ポイント③】(支援の工夫) 交流学級の友達の顔を自分で思い出せるよう、児童が必要としたときに提示する。	
★安心感・承認感を高めるために 考えを具体的にし、自信をもって思いを表出できるように、写真を提示したり、視覚的、触覚的な支援を取り入れたりしながら、一人ひとりの活動や発言を認めていく。					
ねらい	学習活動	A 児	B 児		
つかむ ふかめる	1. 前時の活動を振り返る。 単元のまとめで「さつまいもパーティー」を開き、交流学級の教師や友だちにさつまいもを使ったおかしをプレゼントしたり、さつまいものクイズを出したりすることを確認する。 2. 課題をもつ。 こうりゅうがっきゅうのせんせいやともだちにクイズがだせるように、さつまいもはかせになろう。 3. さつまいもについて知っていることを話し合う。 4. さつまいも博士になるためのゲームを行う。 ① 触って さつまいもあてゲーム ボックスに入っている3種類の野菜(さつまいも、じゃがいも、里芋)から手触りだけでさつまいもを探そう。 食べて さつまいもあてゲーム 3種類の野菜(さつまいも、じゃがいも、里芋)を食べてさつまいもを選ぼう。	○: 予想される反応 ◎: 学びを深めるための手だて(支援) ★: 評価規準 ○交流学級の教師や友だちを思い浮かべて話を聞く。 ◎それぞれの交流学級の教師の顔写真を用意し、自分の交流学級の教師や友だちを思い浮かべて話が聞けるようにする。 ○さつまいもや、さつまいもを使ったおかしを食べた経験を話す。 ◎自分の知っていることを一方的に話す傾向があるので、さつまいもを使った料理の写真を準備し想起させる。 ○さつまいもを選び、どうしてさつまいもだと思ったか話す。 ◎比較する者があると形の特徴に気付くので、3種類のいもを用意する。 ○さつまいもを選び、どうしてさつまいもだと思ったのか経験から話す。 ◎給食で食感や味覚について話題にし、意識させていく。(事前指導) ◎間違えたときはヒントコーナーでさつまいもを試食し、味を確かめる。 ◎さつまいもの水やりや草取りをした経験を想起できるように写真を示す。 ○さつまいもの水やりや草取りをした経験を想起できるように写真を示す。 ○選ぶことが難しい。 ◎SSと一緒に考える。 ◎さつまいもの水やりや草取りをした経験を想起できるように写真を示す。	◎: 学びを深めるための手だて(支援) ★: 評価規準 ○さつまいもや、さつまいもを使ったおかしを食べた経験を話す。 ◎自分の知っていることを一方的に話す傾向があるので、さつまいもを使った料理の写真を準備し想起させる。 ○さつまいもを選び、どうしてさつまいもだと思ったか話す。 ◎比較する者があると形の特徴に気付くので、3種類のいもを用意する。 ○さつまいもを選び、どうしてさつまいもだと思ったのか経験から話す。 ◎給食で食感や味覚について話題にし、意識させていく。(事前指導) ◎間違えたときはヒントコーナーでさつまいもを試食し、味を確かめる。 ◎さつまいもの水やりや草取りをした経験を想起できるように写真を示す。 ○さつまいもの水やりや草取りをした経験を想起できるように写真を示す。 ○選ぶことが難しい。 ◎SSと一緒に考える。 ◎さつまいもの水やりや草取りをした経験を想起できるように写真を示す。	・カレーパーティーでうちの方を招待し喜んでもらった経験から、今回のさつまいもの学習では、交流学級の教師や友だちが喜んでくれることを目標に学習を進めていけるようにする。 ・さつまいも、じゃがいも、里芋を見せて、目で見て分かることや食べた経験を話せるようにする。 ☆どうしてさつまいもだと思ったのか、個に応じて考えたり、話したりできるように視覚的、触覚的な支援をしたり、写真を提示したりする。 ☆基本的な話し方を提示しておく。 <これがさつまいもだと思います。どうしてかというところからです。> ☆児童の発言を認め、褒めていく。 ・世話を頑張ったことや、楽しく収穫できたことを関連づけて価値付けしていく。 ☆上手に聴くことができる児童を認め、聴き方名人に顔写真を貼る。	
まとめ	5. さつまいもについてまとめ、みんながさつまいも博士になったことを確認する。 さつまいもの形は細長い。 手触りはぼこぼこ、ざらざらしている。 味は甘い。ほくほくしている。 葉っぱの形はハートみたい。 6. 次時では、交流学級の教師や友だちに出すクイズ作りをすることがわかる。	○次時の活動がわかり意欲をもつ。 ★今までの経験を想起しながらさつまいもの特徴を話したり、さつまいもの葉を選んだりしている。 (発言)【思考・判断】	★さつまいもはかせになるためのゲームを楽しみ、間違えても意欲的に挑戦している。 (観察)【関心・意欲】	【ポイント⑤】(評価の工夫) シールで目に見える形で評価することにより、達成感や自己肯定感を高める。	